2022 年 5 月 17 日
タカラバイオ（株）

# 2022 年 3 月期 通期決算説明会質疑応答

（コロナ検査関連試薬）

**コロナ検査関連試薬の売上高が、前期（22/03 期）の 256 億円から、今期（23/03 期）は 120 億円と減収になりますが、この背景を教えて下さい。上期・下期のバランスはどのようなものでしょうか。**

- 国内は、当社自体が専用の検査キットを販売しており、販売動向、検査数、感染者数等の情報を直接把握した上で予想しています。海外は、検査薬会社向けの原材料や OEM 取引が中心であるため、取引先の購入フォーキャストに基づき売上高を予想しています。
- 上期は80億円、下期は40億円、通期で120億円と予想しています。
- 販売状況が予想と乖離すれば、ルールに基づき速やかに情報を開示します。

（一般研究用試薬）

**日本、中国と比較して米国、欧州の回復が遅れているとの説明でしたが、どのような理由によるものでしょうか。**

- 日本・中国においては、エンドユーザ向けの製品販売が中心で、回復は進んでいますが、米国・欧州は、他社への OEM や酵素などの原料販売の比率が高く、この部分の回復が遅れ気味であり、影響を受けています。

（CereAAV™）

**CereAAV™ については、どのようなビジネスモデルを想定していますか。また、どのようなタイムラインでの開発を計画していますか。この分野でのタカラバイオの強みは。**

- 既に創薬標的を持って開発を進めている製薬企業などには、技術ライセンスを考えています。
- CereAAV™ の優位性を示すために、当社で臨床開発を進める必要があると考えています。そのためにアカデミアとの共同研究などから、創薬標的とその治療用遺伝子を定める開発を行っており、早期に具体化したいと考えています。タイムラインとしては、臨床ステージに進めるにはさらに複数年を要すると見込んでいます。
- 製薬企業に技術ライセンスした後も、CDMO として製造面で協力できる点は、当社の強みと考えています。

2022 年 5 月 17 日
タカラバイオ（株）

（地政学リスク）

**中国のコロナ感染拡大の影響、ロシアのウクライナ侵攻の影響はどのようなものでしょう。**

- 研究用試薬の基幹工場は中国の大連市にありますが、今のところ、コロナウイルス感染拡大によるロックダウンやサプライチェーンの混乱などの大きな影響は受けていませんが、将来は不透明と考えています。
- リスクを分散するため、日本や米国の拠点で試薬製造の整備を進め、昨年度からこれらの施設を稼働しています。
- ウクライナ問題については現時点での影響はほとんどありませんが、将来リスクの回避のために、各拠点で資材や製品の在庫を多く持つなどの対策をとっています。

（中期経営計画・長期経営構想）

**既に発表している中期経営計画・長期経営構想の定量目標を達成したようですが、あらたな計画の発表予定はありますか。**

- 新型コロナウイルスの影響もあり、「中期経営計画 2022」、「長期経営構想 2025」の定量目標を一時的に達成しましたが、この影響を除いても、営業利益 100 億円という長期経営構想の最終年度目標を可能な限り前倒しで達成したいと考えています。
- 来年度には新たな中期経営計画を発表する予定です。各種目標については、新中計で見直したいと考えています。

以上